春季彼岸会永代経法要

講師　貴島　信行　師　　　**2021. 3. 20(土)**

講題　「慈光はるかに」

　今年初めての法要となりました。報恩講より約5ヵ月も間が空いての法要でしたが、沢山の方がお参りして下さいました。そして、今年法事を勤められた方々、圓満寺御頭講よりお供えを頂戴し、有り難うございました。

　この度は法中様無しで院主・若院の2人で内陣出勤です。

お話されづらかったと思いますが、感染症対策のため貴島先生も終始マスク着用でお取り継ぎ下さいました。

お天気にも恵まれ、床暖房は入れましたが、換気も十分に行うことが出来ました。

ふるさとには3つ

①生まれた瞬間に吸った息の一部は一生肺に留まっているので、我が身は故郷と共にある

②命を終えた後に故郷がある

③父母がいるところが故郷である

この命を終えた後のことを聞かせていただくのが彼岸会や永代経法要のご縁とだと。命を終えたらば、阿弥陀様のおはたらきによって、お浄土に参るのではなく還るのです。父母がいるところ、お浄土こそが故郷であるとお聞かせ下さいました。

　お供えは如来様の御下がりとして、お参り下さった方々にお持ち帰りいただきました。

　法要の後には、境内の納骨壇に納骨されている方々と共にお勤めいたしました。

　この度の法要に御参詣の方には、本願寺出版社から発行されています

『お彼岸　春』

をお渡ししました。

　４人の先生が執筆されていて、薄い冊子、なので空いた時間にさっと読むことが出来、わかりやすくまとめられています。

　是非、一度読んでみられては如何でしょうか。

皆様、御参詣
有り難うございました。